

簡単点字楽譜入門講習会

テキスト 2

(メニュー・ボタン入力付)

2019年度

NPO法人 未来デザイン会議
ビー・ミュージック

子どもゆめ基金助成活動

このテキストでは、ビースコア独自の操作方法、いろいろな楽譜を作るときに必要な音楽記号について説明する。メニュー・ボタン入力についての説明は、このように緑の字で表す。

A. ビースコア独自の操作方法

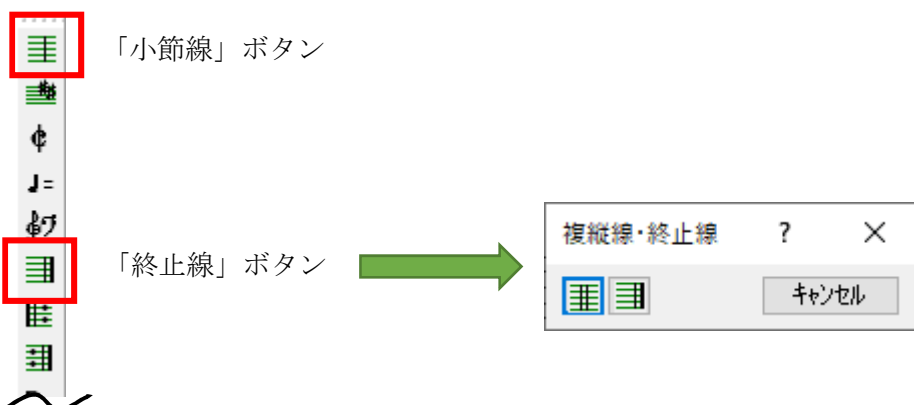
1. 小節線・複縦線・終止線

小節線、複縦線、終止線の入力方法は、通常の点字エディタと異なる、ビースコア独自の操作で入力する。

記号名	直接入力キー	音楽記号入力でのフルキー入力
小節線	B または Shift+Space(翻訳はしない)	b
複縦線	Shift+B	rln
終止線	Ctrl+B	elin

メニュー・ボタン入力の場合

直接入力と同じ方法、または楽譜記号ツールバーの「小節線」ボタン、「終止線」ボタンを押して入力する。



楽譜記号ツールバー

2. 翻訳

ビースコアでは、点字を点字楽譜として正しいかチェックし、小節ごとに拍数を計算して正しい長さの音符・休符にするため、「翻訳」を行う必要がある。Tキー (Translationの頭文字) を押すと、翻訳を行う。Bキーを使って小節線、複縦線、終止線を入力すると、自動的に翻訳も行われる。翻訳は、全パート、全小節に対して行われる。翻訳が通っていない小節は演奏することができない。

翻訳のエラーメッセージが煩わしいときは、「今後、翻訳エラーを非表示にしますか？」とのメッセージが現れたときに、「はい」を選択する。元に戻りたいときは、ビースコアを再起動するか、メニューの「翻訳」から「翻訳結果表示レベル設定」を選び、表示レベルを「表示しない」以外に変更する。

3. 多段譜(ピアノ譜を含む)

新しい楽譜を作るときは

- (1) 起動して「新規作成」ボタンを押す。
- (2) 「楽譜の初期設定 (2)」の画面で、パートの設定を「一段譜」から「多段譜」に変更し、「次へ」ボタンを押す。

(3) 次の「楽譜の初期設定(3)」の画面で、楽譜のパート構成を設定する。「五線をト音で追加」、「五線をへ音で追加」、「その他の音部記号で追加」、「ピアノ譜を追加」、「歌詞の行を追加」、「コードの行を追加」、「下から1つずつ削除」のボタンがあり、ボタンを押した順にパートが追加される。

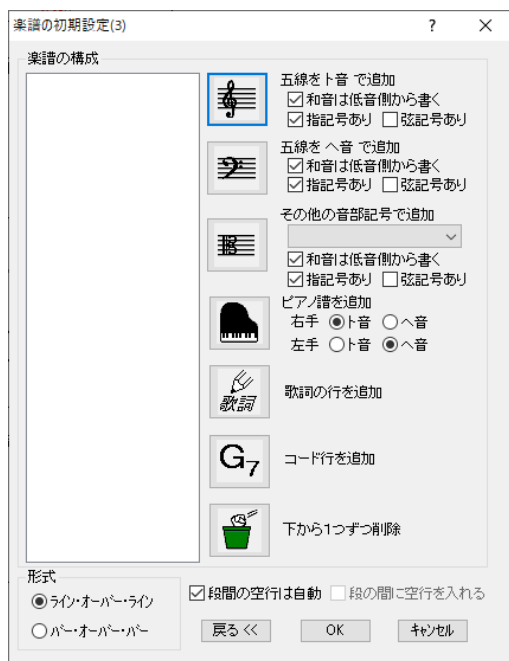
ボタンごとにオプションの設定項目がある。例えば、「五線をト音で追加」ボタンには、「和音は低音側から書く」、「指記号あり」、「弦記号あり」の設定項目がある。必要な項目にチェックをつけてから「五線をト音で追加」のボタンを押すと、設定に従ったパートが1つ追加される。

ピアノ譜を作りたいときは、曲の最初の右手・左手の音部記号を「ト音」、「へ音」から選び、「ピアノ譜を追加」のボタンを1回押すと、左右のパートが1組追加される。

歌詞を入力したいときは、歌詞のメロディーのパートの次に、歌詞のパートを追加する。「歌詞の行を追加」のボタンを押す。歌詞が2番まであるときは2回押す。(歌詞は演奏されない)

コードを入力したいときは、「コードの行を追加」のボタンを1回押す。(コードは演奏されない)

間違えたときは、「下から1つずつ削除」のボタンを押すと、最後のパートから削除されていく。現在のパート構成は「楽譜の構成」リストで確認できる。



編集中の楽譜のパート構成を変更したいとき、現在のパート構成の下にパートを追加・下から削除することはできる。途中にパートを追加したり、途中のパートを削除することはできない。メニューの「編集」から「初期設定の変更」(V4.85のときはさらに「楽譜の構成の変更」)を選ぶと、「楽譜の構成(3)」の画面になる。現在の構成が表示されるので、パートの追加、または下から削除を行う。

ここでの音部記号は、五線譜表示のための音部記号で、和音の方向とは無関係である。

4. 改行・段がえ・改ページ

複数のパートがある楽譜やピアノ譜では、同時に演奏する複数のパートの集まりを「段」と呼ぶ。ビースコアでは、次の段を作る操作を「段がえ」と呼ぶ。また、同じパートの中で改行することを「パート内の改行」とよぶ。（音楽記号入力、マウス・メニュー入力も共通）

記号名	直接入力キー
パート内の改行	Enter
段がえ	Shift+Enter
改ページ	Ctrl+Enter

パート内の改行を行うと、カレットがある位置で切断され、次の行に切断された続きが移る。元に戻したいときは、切断位置で Delete キーを押し、改行記号を削除する。

段がえを行うと、すべてのパートの同じ小節の同じ拍のところで切断され、現在の段の下にすべてのパートの切断された続きの行が移る。段がえを行うには、切断する小節がすべてのパートで翻訳済みでなければならない。元に戻したいときは、任意のパートの切断された位置で Delete キーを押し、段がえ記号を削除する。

改行、または段がえにカレットを置いて、改ページを行うと、その下の行以降が次のページに移る。元に戻したいときは、改ページを設定した位置で、再度 Ctrl+Enter キーを押し。

5. 和音の書き方

和音の書き方は、3種類(音程法、音符法Ⅰ、音符法Ⅱ)のうちのどれかを選ぶ必要がある。和音を書く方向（一番低音の音符を基準音にして下から上へ従音を書くのか、その逆にするのか）は、通常は低音側から、ピアノ譜の右手のみ高音側から書く。

音程法：

基準音とそれ以外の音符(従音)を基準音との高低差（何度離れているか）で表す方法。同じ高さを1度、隣の音を2度、さらに隣を3度・・・、1オクターブを8度と数える。ビースコアでは1度の代わりに音列を付けた8度を利用する。

記号名	点字（6点入力）	音楽記号入力でのフルキー入力
2度	⠠⠠	ch2
3度	⠠⠠⠠	ch3
4度	⠠⠠⠠⠠	ch4
5度	⠠⠠⠠⠠⠠	ch5
6度	⠠⠠⠠⠠⠠⠠	ch6
7度	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	ch7
8度	⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	ch8

例えば「和音を低音側から書く」と設定したパートで、ドミソの和音は、ド、3度、5度「⠠⠠⠠⠠」と書く。

音符法：

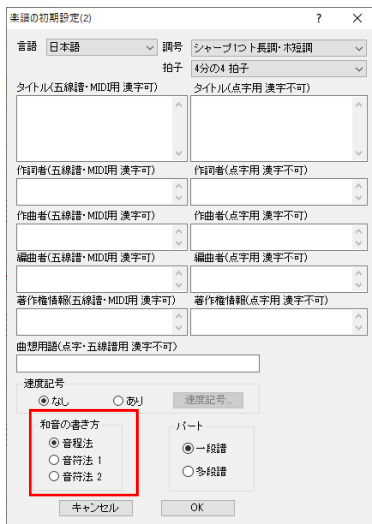
基準音を最初に書き、従音を音名（ドレミファソラシ）で表す方法。スタッカートなど、従音と同じ点字の記号との混同を避ける必要があり、その避け方の違いでさらに音符法 I、音符法 II に分かれる。

記号名	点字（6点入力）	音楽記号入力でのフルキー入力
従音のド	⠠	chc
従音のレ	⠡	chd
従音のミ	⠢	che
従音のファ	⠣	chf
従音のソ	⠤	chg
従音のラ	⠥	cha
従音のシ	⠦	chb

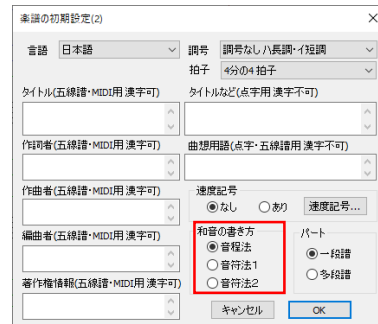
例えば「和音を低音側から書く」と設定したパートで、ドミソの和音は、ド、従音のミ、従音のソ「⠢⠠⠤」と書く。

ピースコアでは和音の書き方は最初に設定する。起動して「新規作成」ボタンを押し、次の「楽譜の初期設定（2）」の画面で、3種類の中の一つを選択する。曲の途中から異なる書き方にすることはできない。

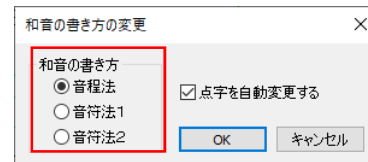
設定を変えたいときは、メニューの「編集」から「初期設定の変更」（V4.85 のときはさらに「和音の書き方の変更」）を選ぶ。現在の設定が表示されるので、変更する。



V4.61 の和音の書き方設定・変更



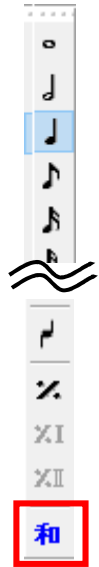
V4.85 の和音の書き方設定



V4.85 の和音の書き方変更

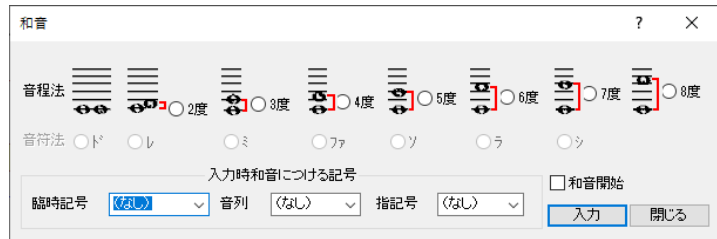
メニュー・ボタン入力の場合

和音の基準音は、通常の音符を入力する。従音は、音符ツールバーの「和音」ボタンを押して和音の画面から、従音を選ぶ。音程法るとき、音符法るときで、選べるボタンが異なる。

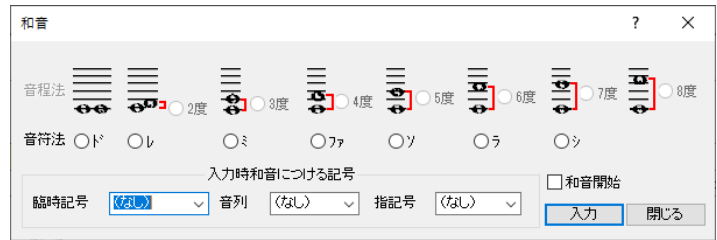


音符ツールバー

音程法するとき：2度～8度のボタンを押す



音符法 I, □ のとき：ド～シのボタンを押す



6. 前記号・後記号

ビースコアのメニューには、前記号、音符、休符、後記号、楽譜記号、一般記号という、記号を入力するためのメニューがある。この中で、「前記号」には1つの音符や休符の前に書く記号が、書かれる順番に並んでいる。また、「後記号」には、1つの音符や休符の後に書く記号が、書かれる順番に並んでいる。

ツールバーにはメニューと同じ記号が、メニューと同じ順番に並んでいる。

B. その他の主な音楽記号

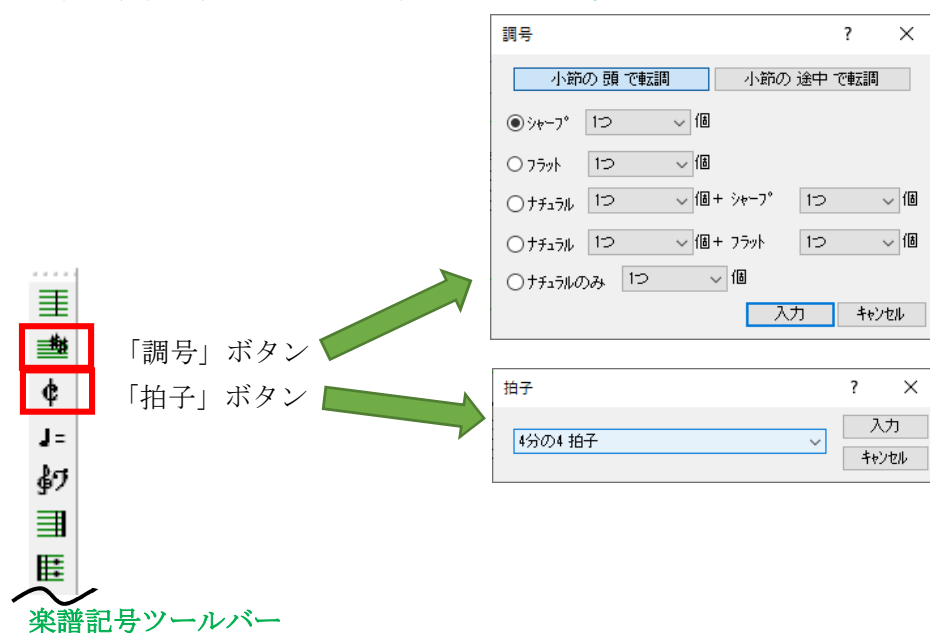
1. 転調・転拍子

小節線、複縦線の後に、新しい調号・拍子を入力し、1マス空けて楽譜を書く。多段譜のときは、すべてのパートに必要。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
シャープ	⠠⠠	sh
フラット	⠠⠡	fl
ナチュラル	⠠⠢	na
8分の6拍子	⠠⠠⠠⠠⠠⠠	6/8

メニュー・ボタン入力の場合

転調・転拍子は、楽譜ツールバーの「調号」ボタン、「拍子」ボタンで入力する。転調のみのときは、1マス空けてから続きの楽譜を書く。転調・転拍子の両方を入力するときは、転調、転拍子の順に書き、間は空けない。



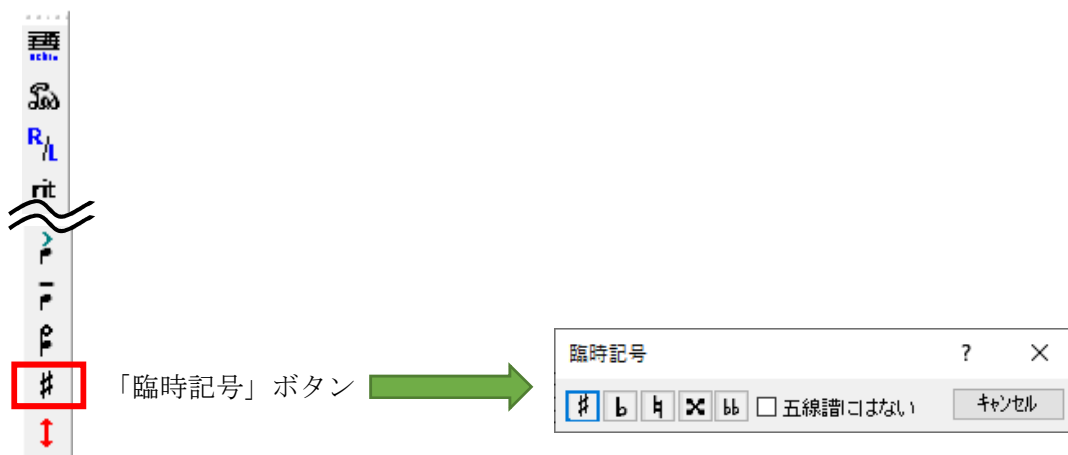
2. 臨時記号

臨時記号は音符の前に書く。シャープ、フラット、ナチュラルは調号と同じ点字。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
ダブルシャープ	⠠⠠⠠⠠	shsh
ダブルフラット	⠠⠡⠡⠡	flfl

メニュー・ボタン入力の場合

臨時記号は、前記号ツールバーの「臨時記号」ボタンで入力する。



前記号ツールバー

3. 装飾音

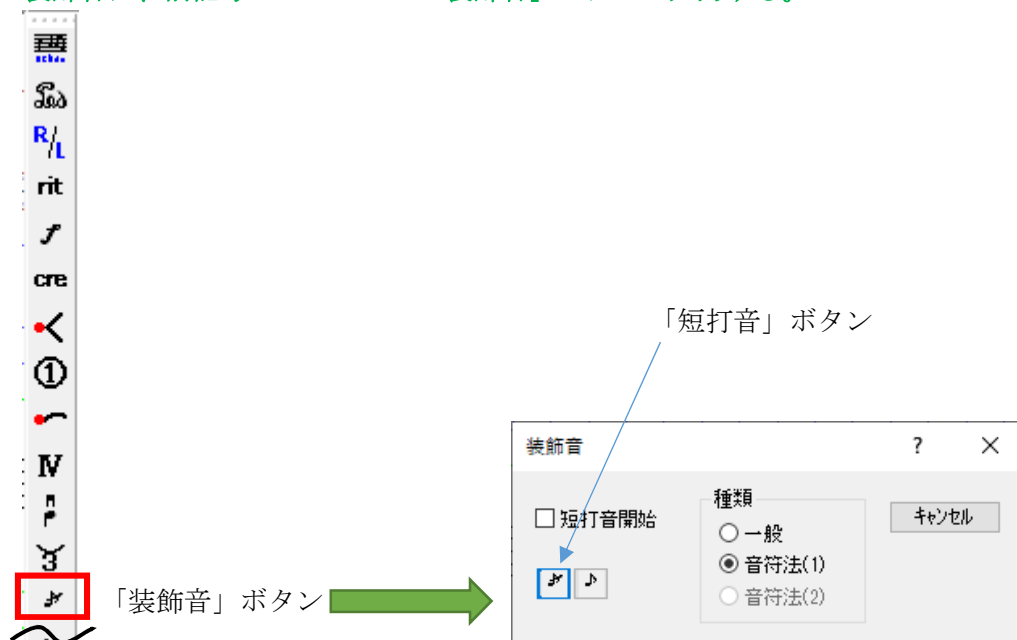
装飾音は、短打音記号を音符の前に書く。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
短打音	⠠	ap

和音の書き方が音符法するとき、短打音記号は従音のレと同じ点字になる。音符法 I では、従音のレにも解釈できてしまうところでは⠠をつけて⠠⠠と書く。音符法 II では常に、⠠ と書く。

メニュー・ボタン入力の場合

装飾音は、前記号ツールバーの「装飾音」ボタンで入力する。



前記号ツールバー

音符法 I では、従音のレにも解釈できてしまうところでは種類を「音符法(1)」に、誤読されな
いところでは種類を「一般」に設定してから、短打音ボタンを押す。

4. スタッカート

スタッカートは音符の前に書く。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
スタッカート	⠠⠠⠠	stc

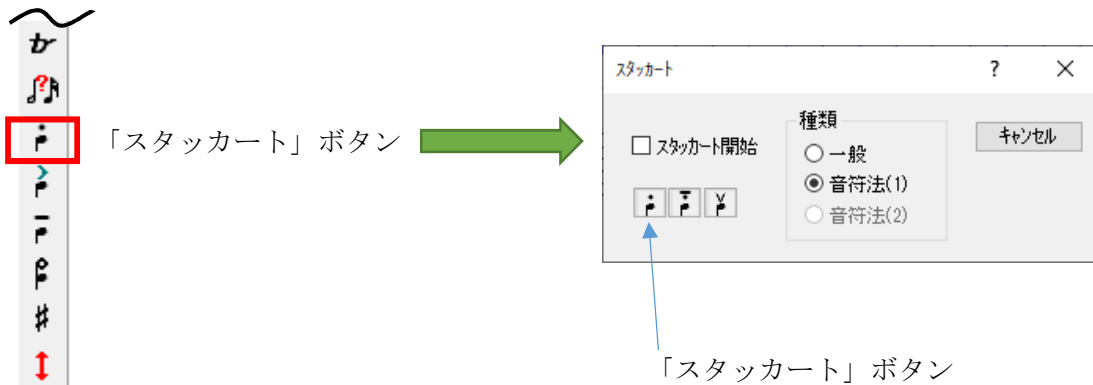
4個以上の連続した音符にスタッカートがつくときは、最初の音符の前にスタッカートを2つ書き、最後の音符の前に1つ書くと、その間の記号を省略できる。

和音の書き方が音符法るとき、スタッカートは従音のソと同じ点字にある。

音符法 I では、従音のソにも解釈できてしまうところでは⠠⠠をつけて⠠⠠⠠⠠と書く。音符法 II では常に、⠠⠠ と書く。

メニュー・ボタン入力の場合

スタッカートは、前記号ツールバーの「スタッカート」ボタンで入力する。



前記号ツールバー

音符法 I では、従音のソにも解釈できてしまうところでは種類を「音符法(1)」に、誤読されな
いところでは種類を「一般」に設定してから、短打音ボタンを押す。

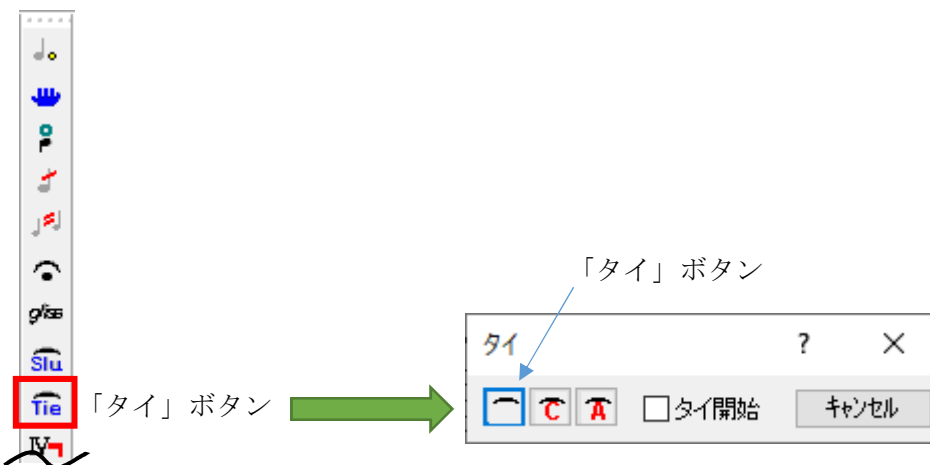
5. タイ

タイは音符の後に書く。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
タイ	⠠⠠⠠	ti

メニュー・ボタン入力の場合

タイは、後記号ツールバーの「タイ」ボタンで入力する。



後記号ツールバー

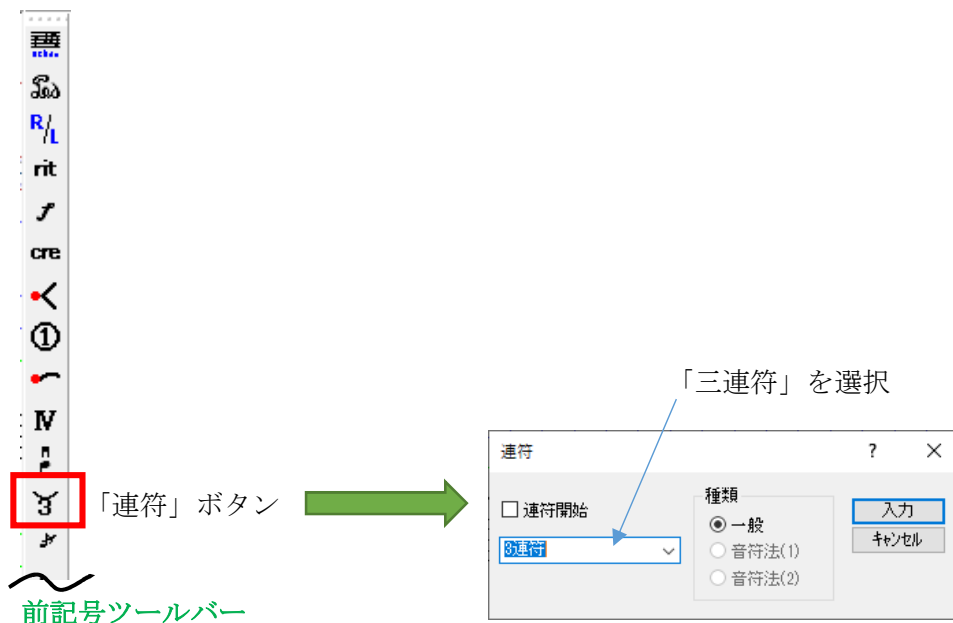
6. 三連符

三連符は、最初の音符の前に連符記号をいれる。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
三連符	⋮	3sq

メニュー・ボタン入力の場合

三連符は、前記号ツールバーの「連符」ボタンで入力する。



7. 小節番号、手記号

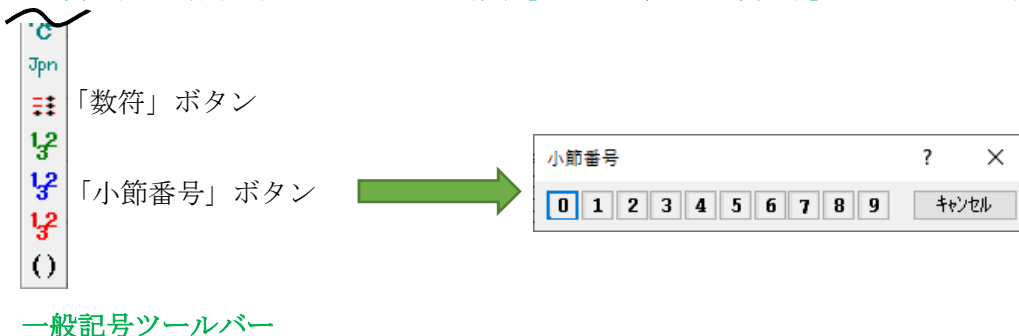
小節番号は、各段の第1行目の行頭に書く。数符の有無は曲全体で統一する。小節番号の後は1マス空ける。

ピアノ譜のときは右手の行に右手記号、左手の行に左手記号を、各段の中の最初の行頭に書くが、小節番号が必ず右手記号の前に付くので、右手記号は省略することも多い。手記号は直後に①②③のいずれかの点がくる場合には、間に⋮を入れる。

記号名	点字 (6点入力)	音楽記号入力でのフルキー入力
10 小節目	(⋮) ⋮ ⋮ □	(num) 1 0
右手記号	⋮ ⋮ (⋮)	right (p3)
左手記号	⋮ ⋮ ⋮ (⋮)	left (p3)

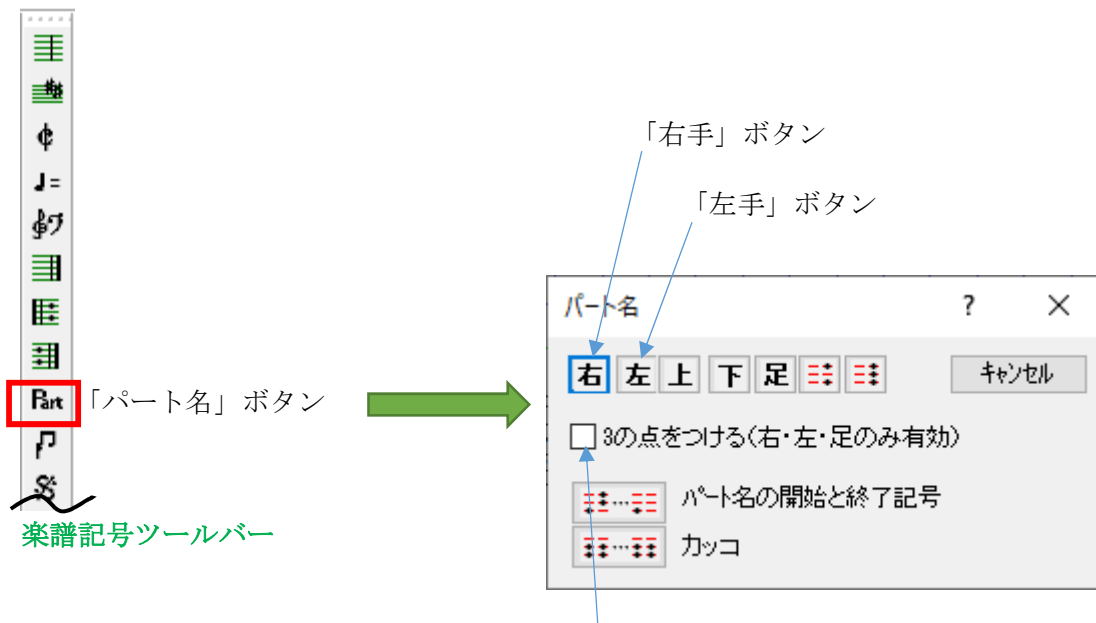
メニュー・ボタン入力の場合

小節番号は一般記号ツールバーの「数符」ボタン、「小節番号」ボタンで入力する。



一般記号ツールバー

右手記号、左手記号は、楽譜記号ツールバーの「パート名」ボタンで入力する。



☺を入れるときはここにチェックをつけてからボタンを押す。